

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4770700179		
法人名	医療法人上善会		
事業所名	グループホーム星のふる里		
所在地	石垣市新川2105番地		
自己評価作成日	平成27年 10月18日	評価結果市町村受理日	平成27年12月22日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku.jp/47/index.php?action_kouhyou_detail_2014_022_kani=true&lievsvoCd=4770700179-00&PrefCd=47&VersionCd=022
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社 沖縄タイム・エージェント
所在地	沖縄県那覇市曙2丁目10-25 1F
訪問調査日	平成27年 11月17日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

当法人では病院が併設しており、急変や夜間時には速やかに対応出来る為、ご家族からは「心強くて安心」との声が聴かれています。入居者様の多くは民謡や踊りが好きで、地域の行事やイベントが開催する際は見学に出かけています。難関行事を計画し、入居者全員で出かけるようにしています。外出先での表情は事業所では見られない一面もあり、今後も継続していきたいです。中学生や高校生の福祉体験や教職10経験研修、職業訓練所の研修生を受け入れ、体験・実習を通して交流を含めながら、施設の理解と福祉・医療知識の知識を肌で感じてもらっています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

同一敷地内に同法人病院が併設されており、日常的な健康管理や緊急時の対応など医療との連携が確立されている。終末期についても病院と協働し、本人・家族が望む生活を送れるように支援している。また、介護老人保険施設も併設しており、行事などの際に訪れたりして交流している。行事活動では日常の外出支援の他に、地域での季節ごとの行事や家族とホテルで食事を開催するなど家族も積極的に参加出来るようにしている。保育園児や小中高生・実習生が事業所へ訪れるなど地域との関わりも多く持っている。事業所内での勉強会や地域で開催されている認知症についての勉強会に参加しケアの質の向上に努めている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	グループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない			

自己評価および外部評価結果

確定日:平成27年12月14日

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念は毎朝唱和し、来所頂くすべての方に見て頂ける場所に掲示しています。利用者様一人一人の意思や人格を尊重し、ミーティングやケアカンファにて話し合いをもち、その人らしく出来る事への支援を行えるよう、管理者、職員は理念を共有し実践しています。	「家庭的でなじみのある環境を作り、地域との関わりを大切に安心して生活が送れるように支援する。」と理念に掲げ実践に努めている。年2回の職員との面談では「安心して生活してもらいたい」と意見が出るなど職員に理念の浸透が図れている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	石垣市で行われる地域の行事には参加しています。利用者様本人なじみの地域の行事に参加したり、近所の保育園へプレゼントを持って交流会を行うなどし、近くのスーパーなどへ食材の買い物に職員と一緒に出かけ、近隣、地域との触れ合いを大切にしています。	季節毎に開催されている地域行事への参加や敬老会で交流のあった保育園にはクリスマス会で訪問したり、併設している同法人での行事にも参加するなど、積極的に地域との関わりを持っている。また、小学生との触れ合いや、中高生や実習生の受け入れを行っている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	中学・高校生・教職の職場学習や実習を通して、認知症の理解を深めるうえで実践の前に認知症の気持ちを少しでも理解できるお話をし、利用者様と接してもらってます		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	基本偶数月の第三水曜日に開催しています。会議の内容は①利用者様の状況及び、サービス提供の状況、結果について、②行事予定③サービスへの要望、助言④その他、会議の内容はミーティングで話し合いを持ち、改善すべき点は速やかに取り組みより良いケアが出来るよう取り組んでいます	定期的に運営推進会議を開催し、利用者、家族、行政、地域代表が参加している。会議では利用者の状況報告や行政との情報交換をしている。また、家族や行政等から出た意見や要望については職員間で検討を行い改善できるように取り組んでいる。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進会議では包括支援センターの担当職員へ生活の場を見て頂きながら、サービス提供状況や事故報告、活動内容を報告し、ケアの内容についてアドバイスももらって改善しています。	月に1回は市役所に訪問し担当職員に利用者の状況等の報告をしている。職員のスキルアップを目的に事業所で開催した勉強会に市職員が講師を務めたり、地域包括支援センターからの要請で市民フォーラムの開催時には協力を行うなどして連携を図っている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	基本的に身体拘束はしていません。利用者様に危険が及びどうしても必要な場合は、職員全員で検討し、家族の同意を得てから行うようにしています。	家族からの身体拘束の要望が聞かれることがあった。身体拘束を行う事による影響等を説明して家族に理解してもらっている。文書による確認を取るよう関わっているが、一部家族からの確認書の回収や経過観察などの実施記録は確認できなかった。	やむを得ず身体拘束を行う場合の必要書類や検討会議、経過記録を残すなど身体拘束をしないケアの実現に向けて努めていく事が望まれる。

沖縄県(グループホーム星のふる里)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内の虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	高齢者虐待は勉強会を開催し、職員全員と虐待に関しての認識を持ち、管理者、職員でいつでも情報の共有化が出来る環境体制をとっています。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	現在成年後見制度を利用されている方がいますので、電話連絡ではありますが確認をとりながら情報を報告しています。計画書に関しては家族と成年後見人にコピーをお渡ししています。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約に関する説明は、時間をかけ丁寧に説明し、ご家族様の質問を聞きながら確認しています。内容に関しては、ご家族様より同意を得て署名、捺印を頂いています。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	玄関に意見箱を設置している。面会や訪問時に家族より、苦情(意見)があれば対応するようにしています。 運営推進会議でもサービスについて家族に意見を伺うようにしています。	意見箱の設置や家族から直接、意見を聴取しその都度対応・改善に努めている。家族より「面会簿の個別化を図って欲しい」という要望に対して、各利用者一人ひとりの面会簿へ変更するなど家族の意見を取り入れ実践している。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	管理者は、月1回のミーティングで職員からあげられた意見や提案、要望を取り上げ職員全員で話し合いを持つようにしています。 職員からの意見は利用者様のケアの質の改善、事業所運営への環境整備などに活かされています	日頃から職員より意見を聴取したり、定期的にミーティングを開催し、利用者への対応について検討を行い、ケアの統一を図っている。半年に一回行われる職員一人ひとりの面談では職員各人の目標や達成度を確認し、目標を共に達成出来るように取り組んでいる。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	年度初めに各自目標を設定し、実践し評価を行い賞与へ反映させている。資格取得試験や勉強会では優先的に勉強できるよう勤務を組み、やりがいや自己の向上心を持って働けるよう条件整備に活かされています。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人全体の研修では、外部の講師を依頼して職員研修や、研修報告会等を行っています 事業所では、包括支援センターより講師を招き勉強会を今後行っていく予定をしています。		

沖縄県(グループホーム星のふる里)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	沖縄県グループホーム連絡会より会議や研修への参加は出来ていませんが情報を入手し、サービスの質の向上を目指しています。		
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居当初はなじむことが出来ず戸惑いを見せる表情があるが、職員は積極的に声掛けを行い、困っていることが無いが、傾聴し利用者様に寄り添い本人の思いを確認しています。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居時は面接を行い、ご家族様の不安や要望を聞き入れ、利用者様が不安なく、安心して生活が送れるようにしています。、又入居後も面会や訪問時には状況を報告し、家族へ配慮を欠かさず関係作りに努めています。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	相談・入居についての面談の時は本人・家族の意向を確認し、利用者様本人が必要としているサービスの情報を提供して頂き、当ホームに該当しない場合は該当しない事を説明し、他施設に紹介を行っています。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	職員には日頃から「させて頂く介護」あなたが居てくれるから私たちがいる、共に支えあう共同生活者をして、関係を築いていくように促しています。又、人生の先輩から学ばせて頂いているという姿勢を大切にしています。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	行事等外出する際は、家族にも声掛けをして参加を促しています。家族の絆が途切れることがないよう、各家族にホーム便りを届けて家族との関係を築きながら情報提供も心がけています。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	なじみのある地域の行事参加しながら、家の近所を散歩して来たり、家族に協力して頂き、出来る限り、外出を依頼し協力して頂いています。	日常の関わりの中で、利用者の生活歴などの情報を汲み取り支援に繋げている。地域行事に参加する際は、自宅駐車場に車を駐め、慣れた道と一緒に移動し行事に参加するなど、住んでいた地域との関わりを持てるように取り組んでいる。	

沖縄県(グループホーム星のふる里)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	フロアで作業をしたり、ゆっくり過ごして頂く際も声掛けを行い、お話ししながらお互いを支え合えるよう支援しています。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退居した後、入院、他施設へ移動された後も職員は面会に伺い、また顔見知りの利用者様と一緒に面会をしています。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	利用者様一人一人の希望・意向は本人に伺うようにしています。意思疎通が困難な方からは、日々の生活の中から観察して、家族からの聞き取りで本人の思いを確認し、本人本位に取り込んでいる	利用者に意向を確認したり、情報収集の中から本人の希望に添う支援を提供できるように関わっている。意思表示が困難な利用者には言葉かけや関わりを多く持ち、表情や反応、家族からの情報をもとに意向に添えるように支援を行っている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	これまでの情報は、家族からの情報や本人との会話の中から生活歴や馴染みの暮らし方の把握に努めています		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	利用者様本人の意思を尊重しながら、出来る事出来ない事を職員が把握し、本人の能力を引き出していけるよう、ケアの質の向上に努めています。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人や家族から要望、意見があれば話し合いを持つようにしています。定期的に担当者会議を持ち、内容によっては職員の意見を取り入れながら介護計画を作成しています。	評価は毎月、モニタリングは3カ月毎に実施している。半年に1回、本人、家族、担当職員が参加し担当者会議を開催している。日頃の様子を報告し、希望を聞き計画に反映させている。更新時に計画を見直し、また利用者の状況により随時にも見直している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	介護記録には、日々の状態を記入し、表情や行動を記入するようにしています。サービス計画書に活かせるよう、変化等のきずきで担当職員と話し合い、ミーティングで職員の確認を得ています。		

沖縄県(グループホーム星のふる里)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	定期受診は病院が併設しているので事業所で行っています。診察結果は、電話にて家族に報告しています。急変時は家族へ連絡し付き添いをお願い、送迎は柔軟に対応しています。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	近隣の公民館長とは2か月に1度お会いして地域の情報・資源を話し合っていますが、近隣近所の方との交流や、地域の活動は十分といえないので、事業所紹介パンフレットを配布し、交流の機会が持てるよう努力していきたい。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	病院は、併設しており、いつでも受診できる状況にある、定期受診は職員が対応し、主治医より家族同伴の指示があれば連絡し対応しています。体調不良が続いたり、気になることがあれば最近の状況を細かくまとめ主治医へ提出し相談しています。	月1回併設病院に職員対応で受診している。受診の際には主治医へ日頃の様子を報告し連携を図っている。他科受診や家族が対応可能な場合には、家族も立ち会い健康状態を把握している。週1回看護師が訪問し、24時間オンコール対応が構築されており緊急時の体制が整備されている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	毎朝看護師へ、健康状態、きずき、変化等を報告しています。気になり方がいる場合、様子を見てもらい、相談、指示を貰っています。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院の際には、面会に行くなどして、入院先の担当看護師や相談員と連携をとり情報収集を行っています。 退院後も利用者様のケアに関して確認を行っています。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居の段階で本人・家族と一緒に話し合いをし、事業所で出来ることを説明を行い方針を共有し、関係機関との連携を行っています。	入居の段階で本人・家族へ終末期についての意向を確認している。同法人の病院が併設されていることから、病院との連携を図り、不安が少ない終末期を迎えられるような支援を行なっている。利用者の状態変化に応じて家族と話し合っている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変に対応できるようにいつでも閲覧できる場所にマニュアルを置き、緊急連絡先を目のつくところに掲示しています。ミーティングなどでも勉強会を行っています		

沖縄県(グループホーム星のふる里)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	消防訓練は年2回行い職員全員が実践できるよう配慮しています。新しい職員が着たりとまだ不十分なところがありますが継続して行きたいと思っています。地域との連携に関しては近隣住民にの方との連携が課題になっています。	昨年は夜間想定で消防避難訓練を1回実施し、昼間想定で来月実施予定である。併設の病院、老健とは自動で連絡がいくシステムが構築されている。食料の備蓄は1週間分ある。訓練風景を写真に撮り記録として残している。	前年度の防災訓練の実施回数が一回となっている。年二回の防災訓練の開催の取り組みに期待したい。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	トイレや入浴の誘導時は他の利用者様への配慮を行い、日々の声掛けに関しては、私たちの大先輩であることを念頭に置き、敬語を使用し本人を傷つけない様配慮を行っています。又、ミーティングや入職職員に関しても服務規程の元個人情報保護、秘密保持の徹底に努めています。	個別介助を基本とし、言葉かけや対応方法も一人ひとりに合った対応を実践している。市職員による接遇の勉強会により利用者の人格を尊重する技術習得や、新職員には、個人情報の取り扱いについてオリエンテーションを行いプライバシーの保護に対する理解を深められるように努めている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	入浴や活動時、本人の意思を確認し、参加を促しますが、意思表示の出来ない利用者様が多い為、ジェスチャーや声掛けにて表情やコミュニケーションを多くとることで自己決定できるように促しています。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	1日の生活ペースを枠にはめず、個人個人で過ごして頂いています。歌の好きな方には歌集帳をプレゼントし好きなだけ唄って頂き、外に出たがる方は注意をしながら散歩して頂いています。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	意思決定の出来る利用者様には好きな洋服を選んで頂き、鏡の前で整容をして頂いています。意思決定の難しい利用者様に対しては、汚れがあった際着替えるなどして清潔を保っています。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事に関しては、職員が当番制で考え、一人一人に合わせた食事形態で提供しています。どの職員が調理に入っても分かるよ表にして掲示しています。現在食事の準備が出来る利用者様が居なく、お膳やコップ並べ等残存機能を生かした支援をしています。	食事は3食事業所で手作りしている。週3回食材調達の買い物や、食器やコップを並べる等、利用者は力を発揮している。病院と連携し、利用者に向けた食事形態での食事提供や介助方法を検討するなど利用者が安心して食事ができるようにしている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	水分や食事量チェックは毎食後行っています。水分量が少ない時は、小まめに水分補給を行い、食事量が減ってきている利用者様に関しては、食事以外のもので補っています。主食、副食すべて個人に合わせた食事形態で提供しています。		

沖縄県(グループホーム星のふる里)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後一人一人確認を行いながら口腔ケアを行っています。どうしてもうがいなどが出来ない方に関してはガーゼでふき取るなどし、口腔内の清潔を保っています。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄チェック表を用いてや本人の排泄状態を確認し、各自の時間で誘導を行います。タイミングがずれ失敗などもありますが、表情や仕草を見ながらトイレ誘導を行い支援しています	一人ひとりの身体状況に合わせた排泄介助や排泄間隔を個別に把握し、個々の能力に合わせた排泄介助を行っている。排便のコントロールも便秘傾向である方には乳製品を活用した支援や看護師との連携のもと支援に当たっている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排泄チェック表を用いて、個別に確認を行っていますが、便秘になっている場合は、水分を増やしたり、看護師や医師に相談し調整を行っています。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	基本的に一週間に3回行っています。入浴日は決まっていますが、拒否があったり、体調不良の際は入浴日を自由に変更し本人に合わせています。	週3回の午前入浴を基本とし、利用者の希望に合わせて毎日や午後入浴、ストレッチャー入浴にも対応し、一人ひとりに合った介助方法で提供している。皮膚トラブルなどの兆候がみられる際には、病院とも連携して悪化させないような対応を取っている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	睡眠チェック表を用いて本人のリズムを把握し、本人さんが気持ちよく睡眠がとれるよう環境を整えたり、本人に合わせて生活をして頂いています。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬は医師からの指示通り投与し、薬チェック表にて確認を行っています。薬に変更があった場合はその情報を全員で共有するように申し送りしています。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	日々の生活の中で一人一人の残存機能を生かし、作業に参加して頂いています。時々買物に職員と出かけたりしています。		

沖縄県(グループホーム星のふる里)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	買い物やドライブは、利用者様の希望も添えながら計画、支援しています。地域の行事へ出かけたり、買い物に出掛け気分転換を行っています。お祭りには家族と一緒に楽しんで頂いています。	買い物やドライブなど日常的な外出支援を提供している。利用者さんが事業所の外を散歩したい時には、希望に合わせて職員と一緒に散歩するなど適宜対応している。また、家族会をホテルで実施し、利用者や家族が外で関わりが持てるような行事も実施している。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	現在お金を所持している方はおらず、家族の方が利用者様の好物を持参しています。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	いつでも電話を掛けられるよう支援しています。電話がかかってきた際も取り次ぐようにしていますが、現在該当する利用者様がいらっしゃいません。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	利用者様が季節感を味わえるように四季によってフロア内玄関の飾りつけを行い、利用者様からは、喜びの声が聴かれます。又聴きなれた音楽をフロアで流し、ロザンさんでいる利用者様もいらっしゃいます。	利用者と共に作成した飾り付けを四季に合わせて変え、季節を感じるような工夫をしている。ホールの模様替えを行い、畳間を取り払い、ソファを並べ、利用者の移動が容易になっている。調理場とリビングが近く、調理している食事の匂いが感じられる生活感のある空間を作っている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	共用空間として、フロアにソファを設置し、足を上げて座ったり、本や歌集帳をみて歌ったり個人の過ごしやすい環境を作っています。又ご家族様の来所時もソファと一緒に座りお話などし過ごされています。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもをを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ご家族様には、馴染みのものを持参して頂くよう協力を得ています。家族の写真や、孫からの絵家族様によって飾りつけをして頂き、利用者様が住みやすい環境づくりを行っています。	居室には洗面台、ベッド、たんす、椅子が備え付けられている。家族の写真や絵を飾り、カレンダーや時計が置かれている。ポータブルトイレには布を掛けている。居室を混同しないように居室移動はせず、入口に豆電球を付け夜でも真っ暗にならないように配慮している。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	居室前には居室利用者様の写真を貼り、居室が分かるようにし、トイレの場所も掲示して迷うことなく利用できるようにしています。		